



堺化学工業株式会社

# 化粧品材料 事業戦略説明会

2024年12月2日

【東京証券取引所・プライム市場 証券コード：4078】

# 本日お伝えしたいこと

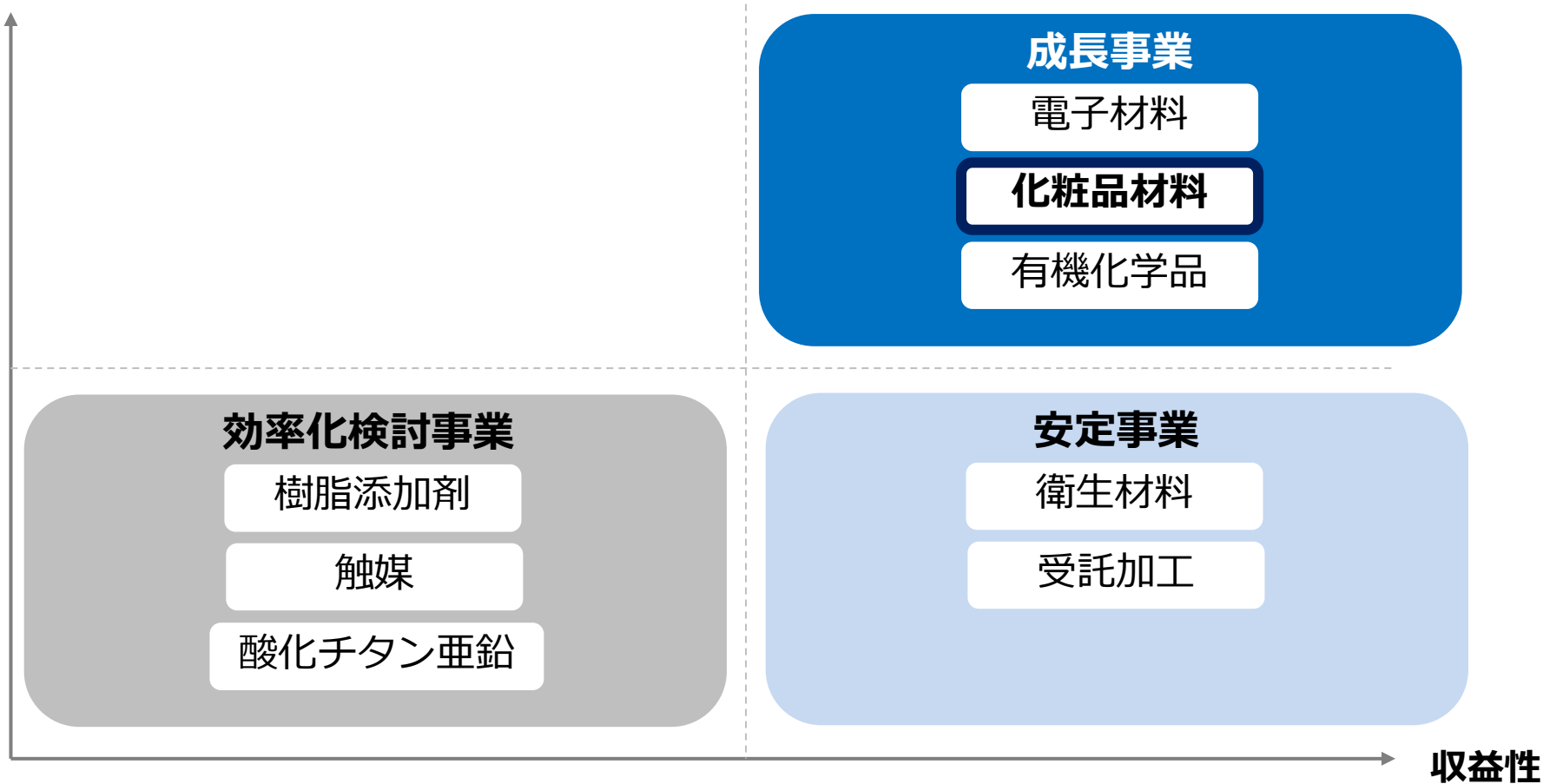
**当社は2024年4月からスタートした中期経営計画  
「変革・BEYOND2030」に取り組んでいます。**

**その中で成長事業として位置付けている化粧品材料における  
堺化学の特徴と強み、市場の構造変化とトレンドについて、  
本日はご紹介いたします。**

# 化粧品材料事業の事業ポートフォリオ上での位置づけ

化粧品材料事業は、成長事業の一躍を担う、今後の中核事業

事業の成長性



出所：中期経営計画「変革・BEYOND2030」

# 「粉体プロセッシング技術」で差別化戦略を推進する

数多くの化粧品素材を世界の市場に提供することで  
人をより美しく健康にするとともに、働く社員の心も豊かにする。

		日焼け止め材料	メイク材料
外部環境		<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境及び人体への負荷低減の動き →有機系材料から無機系材料へ</li> <li>・アンチエイジング需要の高まり →UVAカットのニーズの高まり <b>酸化亜鉛</b>への注目度アップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷低減の動き →脱マイクロプラスチックビーズ（脱MPB）</li> <li>・使用感向上+α機能付与のニーズの高まり →脱MPBとして先行しているシリカではない、無機感 触改良剤のニーズが高まっている。（脱シリカ）</li> </ul>
強み	<b>あらゆる素材をアレンジする高度な粉体プロセッシング技術</b>		
		・高品質な超微粒子酸化亜鉛	・スキンケア機能を中心とした+α機能
戦略	既存	アンチエイジング需要の高まりを、強みとする超微粒子酸化亜鉛で着実に取り込み、既存顧客での採用ブランド数を増加させていく	材料としてだけでなく、粉体加工技術を活かし、完成品(化粧品)として+α機能が発揮されるか？、配合提案にて、化粧品メーカーへ訴求していく
	新規	強みである「品質」と海外大手への採用で得た信頼を武器に、超微粒子品酸化亜鉛の新規顧客の開拓を進めていく	設備投資による生産能力増強により、従来以上の拡販活動に努め、強みとする+α機能で脱MPB/脱シリカ需要を取り込んでいく

# 化粧品材料事業の事業拡大のイメージ

【日焼け止め材料】と【メイク材料】の両輪で、  
中長期的な売上高の拡大を目指していく。

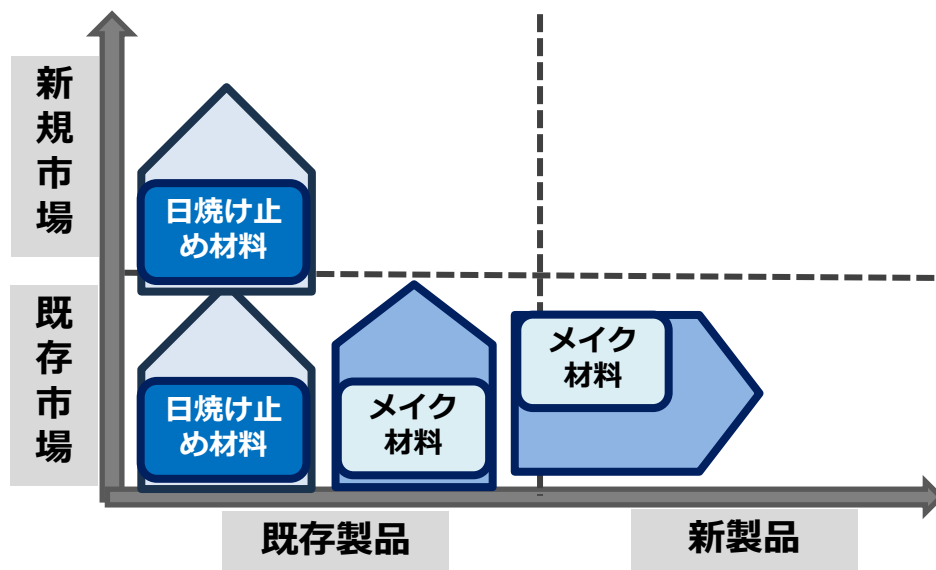
【ターゲット市場及び製品の拡大イメージ】

日焼け止め材料

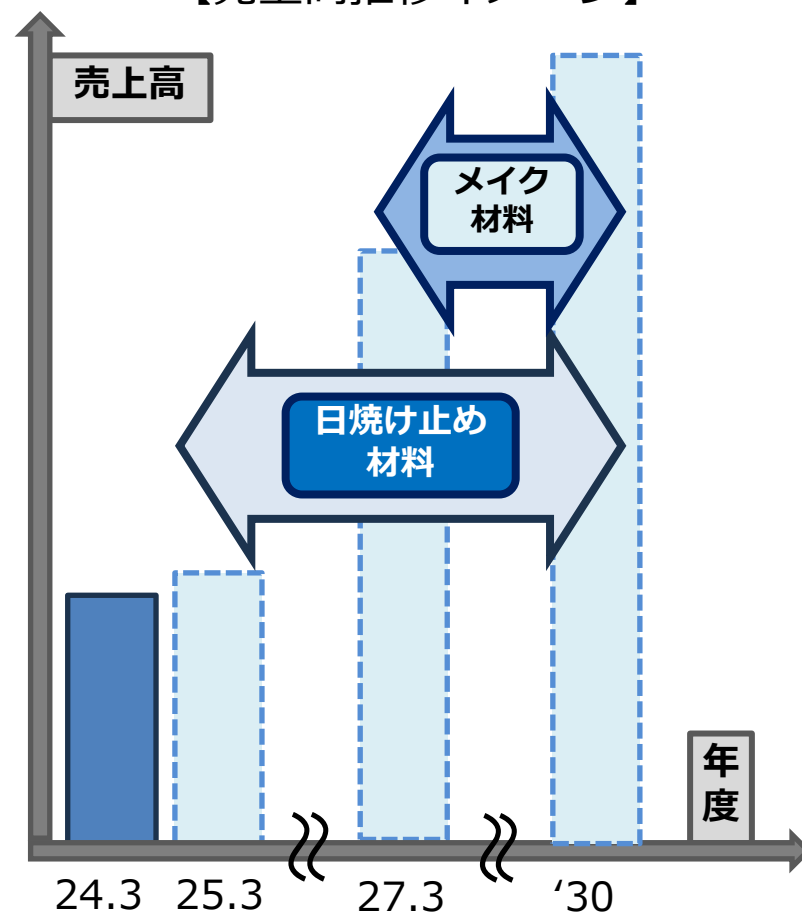
既存はもちろん、新規顧客への展開を加速させ、シェアを広げていく。

メイク材料

既存品の市場本格参入と、+α機能需要を満たす新たな処方提案でシェアを広げていく。



【売上高推移イメージ】



# 市場の成長性と無機系材料の広がり

変化  
1

日焼け止め市場全体が成長しており、  
環境対応や人体への安全意識の高まりから、  
無機系材料（酸化チタン・酸化亜鉛）の使用量が増加してきている。

## ターゲット市場

紫外線カット原料

## マーケットの直近の動向

出荷数量別増加比率  
(2018年度 = 100)

素材別市場  
シェア

## 全体の市場規模

約1,100億円

## 成長性

約5%/年  
(\* 当社推定)

堺化学	原料	2018	2023	2023
	有機系材料	100	114	64 %
○	酸化チタン	100	122	26 %
○	酸化亜鉛	100	117	10 %

【出典】 KLINE（代理店による提供/当社にて一部加工）

# 各化粧品メーカーの環境方針

環境負荷低減に関しては、  
大手化粧品メーカー中心に意識が高まっている。

変化  
1

	コメント内容（一部抜粋）
欧州系 大手A社	2030年までに枯渇のおそれのないミネラルまたは循環型プロセスから得られるバイオ由来の成分へと切り替えます。
日系 大手B社	サンゴへの影響に配慮し、海に流れ出にくい処方を採用しています。
日系 大手C社	製品の使用による日常生活での洗い流しやレジャー時の環境流出を考慮し、水環境の生態系への影響が懸念されない設計

変化1により、新規顧客からの引き合い／有機系材料からの置き換え依頼が増加中。

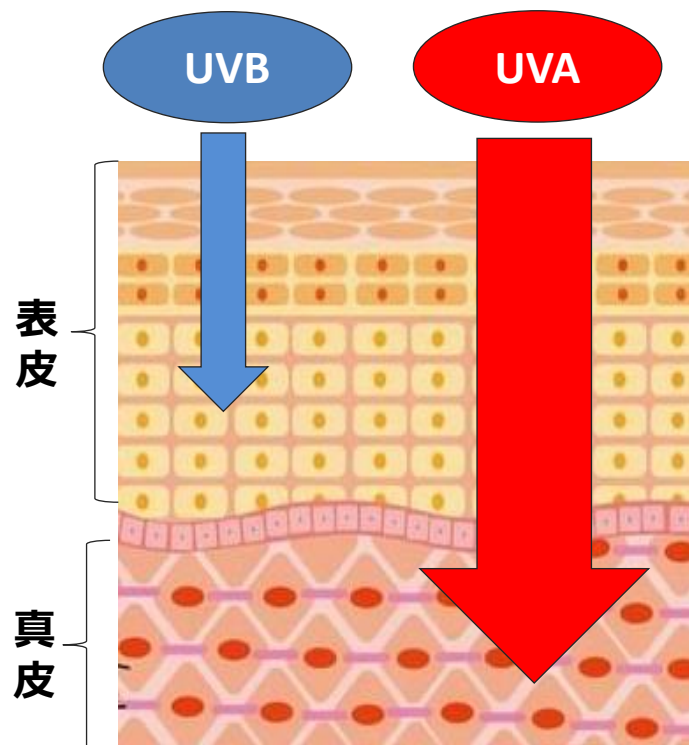
# 日焼け止め対策の「ニーズの変化」

変化  
2

UVBだけでなくUVA対策への注目度が高まっている。

- レジャー・スポーツなどの日焼けを引き起こすのは、UVB
- 中長期的な影響で、シミ・しわ・そばかすの原因となるのはUVA

肌への  
紫外線影響イメージ図



	紫外線	
	UVB	UVA
肌への影響	日焼け、皮膚がん	シミ・しわ そばかす
カット素材	有機系材料 酸化チタン	有機系材料 酸化亜鉛
効果指標	SPF Sun Protection Factor 表記：1～50+	PA Protection Grade of UV-A 表記：+～++++
波長	280～320 nm	320～400 nm
光量	○	◎



# 展開エリア別の特徴と足元の変化

変化  
3

変化  
4

- 海外は日本市場に比べ、酸化亜鉛市場が未発達。
- 欧米で、酸化亜鉛に注目の流れ (欧州：リスト化・米国：高透明性)
- 欧米での酸化亜鉛の拡販には、「高品質」が必須。(海洋汚染対策・FDA対策)

エリア	使用材料			特 徴 (無機系紫外線散乱材について)
	有機系	Ti系	Zn系	
日本	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界の中でも高品質な日焼け止めが求められる。(UVカット性/透明性/使用感)</li> <li>→ 当社は強みである粉体プロセッシング技術により、その要求に応えてきた。</li> </ul>
欧州	◎	○	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酸化チタン処方 of UVカット材を好む</li> <li>→ 地理的要因：酸化亜鉛よりも、酸化チタンの方が調達しやすい。</li> <li>→ 化学物質規制：酸化亜鉛は海洋汚染懸念のため使用が控えられていたが、2016年の化粧品原料にリスト化以降、<u>徐々にその使用が広がりつつある。</u></li> </ul>
米国	◎	○	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日焼け止め製品の最大の消費地</li> <li>・ <u>透明性の高い日焼け止めの要望の高まり</u></li> <li>・ <u>FDA (米国食品医薬品局) による認証が必要</u></li> <li>米国では日焼け止めは医薬品扱いであり、高度な製造・品質管理体制が必須。</li> </ul>
中国	◎	○	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欧州のトレンドを注視する傾向にある。</li> <li>特に、使用する材料に関する規制について、その意識は強い。</li> </ul>

※ ◎ > ○ > ▲ : エリア毎の使用量イメージ

# 環境変化のまとめ

環境対応に適した無機系材料では、UVAカットに有利で、透明性にも優れる、高品質な酸化亜鉛の需要が増加している。

高品質な  
酸化亜鉛  
の需要

変化  
4

## 欧州メーカーでの酸化亜鉛の模索

溶出亜鉛の懸念で使用が控えられてきたが、UVAカットのトレンドや、透明性のニーズの高まりで、欧州からの引き合いが増加してきている。

材料

変化  
3

## 日焼け止め最大市場である米国市場での酸化亜鉛の機運

自然な見映えを可能にする、「高い透明性」が求められるようになってきた。

消費者

変化  
2

## アンチエイジング需要によるUVAカットの注目度アップ

- ① 大人：中長期的なお肌のケア意識が向上
- ② 子供・幼児：若い時期からの日焼け対策需要の高まり

消費者

変化  
1

## 有機系材料から無機系材料への置き換え

- ① 環境負荷低減に向けた動きが加速  
(例：ハワイ州の有機系材料使用日焼け止め製品の販売規制)
- ② 「人」への安全性に対する配慮の高まり

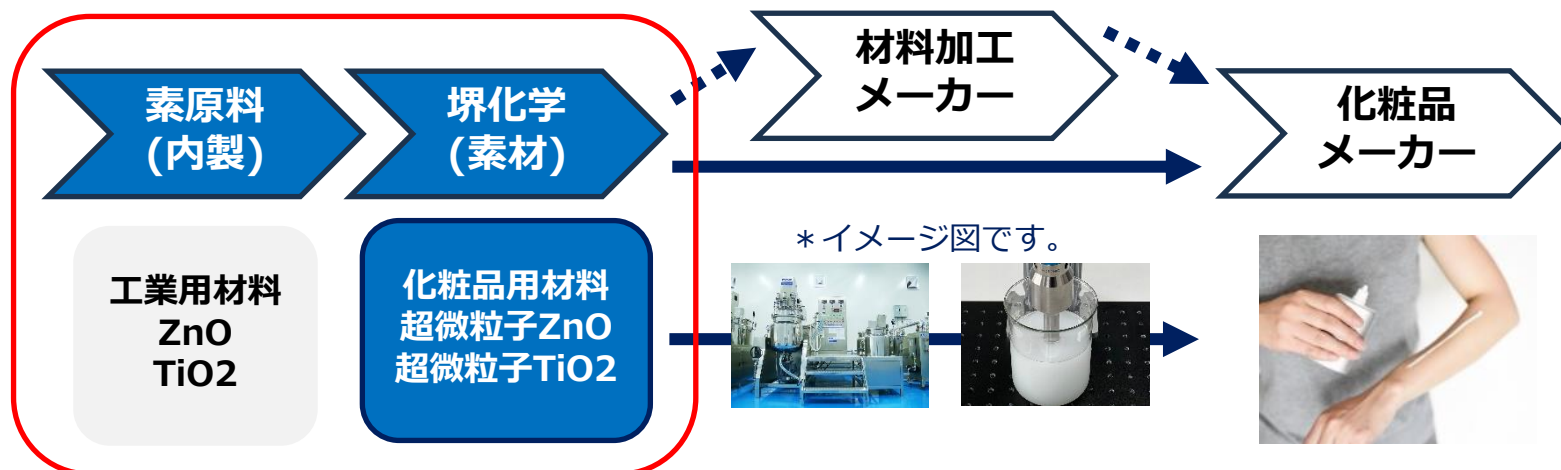
材料

市場の  
変化

「高品質」な「超微粒子酸化亜鉛」が供給可能。

- 高度な粉体プロセッシング技術による、超微粒子・易分散性の実現。
- 米国FDA規制への対応による、高い安全性を確保。
- 素原料からの一貫生産による、低コスト・安定供給の実現。

## ■ サプライチェーン



ZnO : 酸化亜鉛 TiO2 : 酸化チタン

# 競合他社との関係性と競争優位性

強み  
2

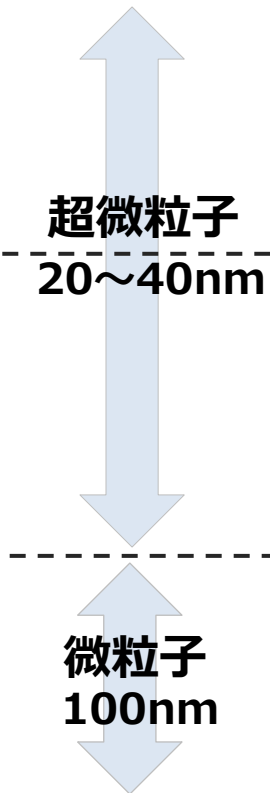
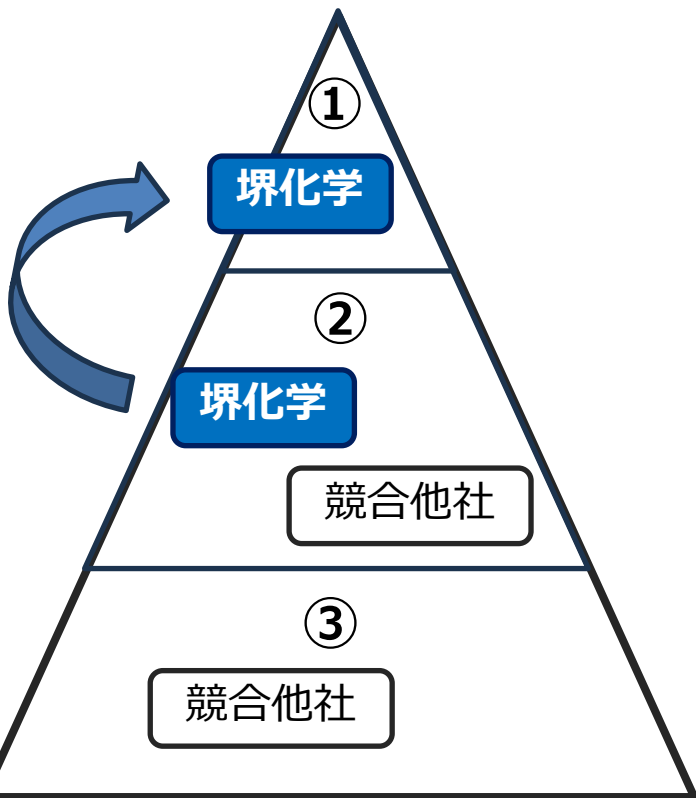
超微粒子酸化亜鉛の中でも、  
「高品質」化による差別化で、他社をリードする。

日焼け止め用  
酸化亜鉛市場

粒子系  
ラインナップ

品質

高



① 高品質な超微粒子酸化亜鉛  
超微粒子酸化亜鉛としては、  
海外大手が初めて当社品を採用

② 超微粒子品供給メーカー。  
競合は世界でも数社程度。  
当社は、約20%のシェアで、  
業界2番手(当社推定)

③ 微粒子品がメイン。  
幅広く使用されているが、  
粒子サイズの観点で透明性に  
関しては性能が劣る

低

高度な粉体プロセッシング技術で超微粒子酸化亜鉛の高品質化を実現し、市場の変化を好機と捉え、シェアを向上させていく。

酸化亜鉛の高品質化 × 拡販活動の推進 → シェアの向上  
(★新たな競争優位性)

海外大手が  
当社超微粒子酸化亜鉛  
を初採用

- ・ 超微粒子酸化亜鉛は初採用  
- 品質の高さによる他社との差別化を実現
- ・ 2025年より出荷開始決定  
- 傘下の複数ブランドに採用

販売体制を充実させ、  
拡販に努める

- ・ 展示会での積極的なPR  
- 新規顧客の開拓  
- 既存顧客への新たな訴求
- 海外大手が認めた材料として、積極的な販売活動を展開。

UVAカット・高透明性  
需要をキャッチアップ

- ・ 美と健康な肌への貢献  
- UVAカット  
→ アンチエイジング需要
- 高透明性の実現  
→ 地肌へより馴染む日焼け止め

- ① 石化樹脂パウダー（MPB：マイクロプラスチックビーズ）が依然主流。
- ② 環境負荷低減の動き、ECHA（欧州化学品庁）の規制もあり、欧州中心にMPBから生分解性樹脂 or シリカ への切り替えが進行中。

## ターゲット市場

MPB代替・  
シリカ代替市場

## 全体の市場規模

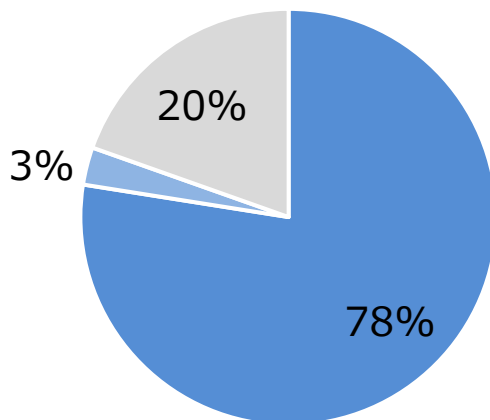
約200億円  
（\* 自社にて算出）

## 成長性

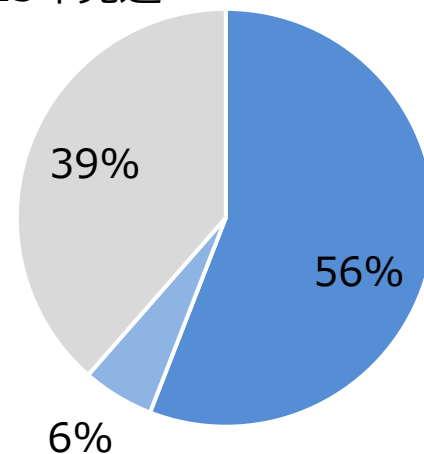
約5%/年  
（\* 当社推定）

## マーケットの直近の動向（※出荷数量ベース）

2019年実績



2023年見込



■ MPB ■ 生分解性樹脂 ■ シリカ

\* 割合について自社計算

MPB：化粧品用パウダー(触感付与)、石化樹脂、アクリル、シリコン、  
ウレタン、ポリアミド、ポリエチレン値を自社で足し合せ

生分解性樹脂：海洋生分解性樹脂パウダー（セルロース・酢酸セルロース）

【出典】※富士キメラ総研（2023年 微粉体市場の現状と将来展望）、化粧品用マイクロビーズ代替パウダー世界市場 2023見込

## 欧州域内でのMPB配合化粧品の販売規制が強化されていく

MPB  
使用量

2023年  
MPB使用規制の高まり

2027年  
リンスオフ製品(洗い流す化  
粧品)の規制開始

※ 2029年  
リーブオン製品(肌に塗布し  
たままの化粧品)の規制開始

※ 特定の化粧品を除く

2035年  
特定の化粧品カテゴリー  
(リップ、ネイル、メイク  
アップ製品)の規制開始

欧州の規制を注視する中国も同様の流れとなり、世界的にMPBの使用量は更に減っていくことが予想される。

(Commissing Regulation(EU)2023/2055を基に自社にて作成)

時間軸

- メイクアップ製品は多岐に渡り、多くの材料が使用され、それぞれに機能・役割がある。
- 当社のターゲットは使用感向上+α機能であり、1つの材料で2機能を実現する。

## メイクアップ製品

リキッドファンデーション、パウダーファンデーション、フェイスパウダー、ルースパウダー BB・CCクリーム、化粧下地 etc

### 役割

### 材料

#### 調色

肌に塗布した際の調色効果を高める。  
トーンアップ効果を出す。

カラー顔料、体質顔料、  
パール顔料、酸化鉄 etc

#### 機能性

スキンケア、化粧持ち、UVカット、  
密着感、保湿、ソフトフォーカス、  
自然なカバー力をもたらす

堺化学  
硫酸Ba  
炭酸Ca  
etc

タルク、マイカ、油剤  
カバー粉体、UVカット、etc

#### 使用感

使い心地を高める

感触改良材  
(MPB、シリカ、etc)  
(MPB:Micro Plastic Beads)

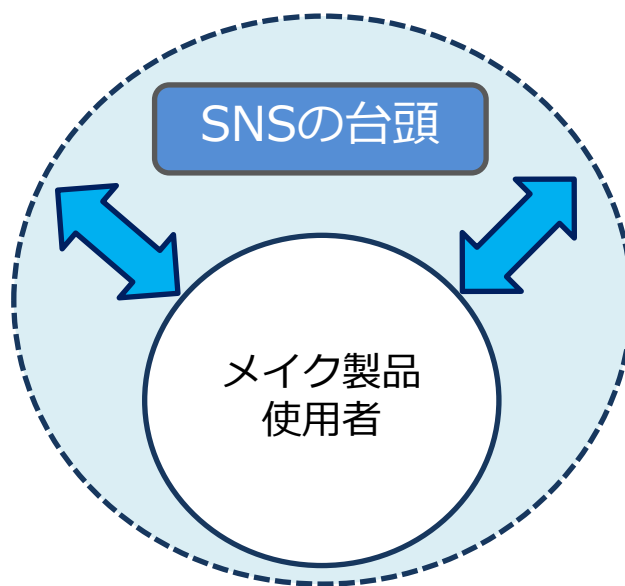
Ba : バリウム / Ca : カルシウム



## メイクアップ製品の適用範囲が広がってきている。

- 多方面への写真・動画の投稿機会の増加
- 韓国コスメなどの流行を若者がいち早くキャッチアップ

男性の  
美意識の向上



メイクアップ習慣の  
若年齢化

# 市場環境変化のまとめ

【材料】と【消費者】両方で市場変化が起きてきており、  
+α機能に対する需要が高まっていく。

+α機能を持つ  
メイク材料需要

変化  
3

## メイクアップ製品の適用範囲の広がり

SNSの台頭により、男性でのメイクアップ製品の使用が広がっており、また流行を追いかけ、若年層からの使用も増加している。

消費者

変化  
2

## 感触改良+αの機能付与のニーズの高まり

一定の感触改良効果だけでなく、化粧持ちやソフトフォーカスなど、1つの材料で複数の機能が求められるようになってきている

材料

変化  
1

## 脱MPB・脱シリカ(Si)の流れ

- ①環境負荷低減に向けた動きが加速
- ②Si によるMPB代替が先行して進んでいるが、さらなる使用感への要望や、エリアによっては懸念材料としての認識があり、脱Siが広がっていく流れ

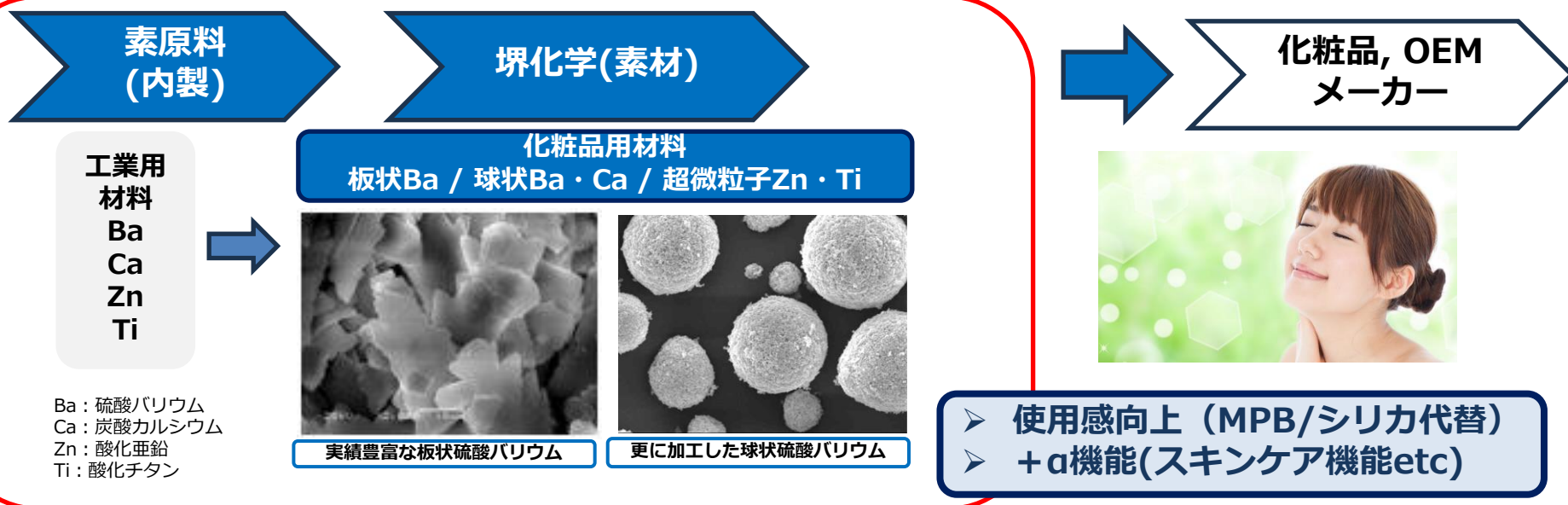
材料

市場の  
変化

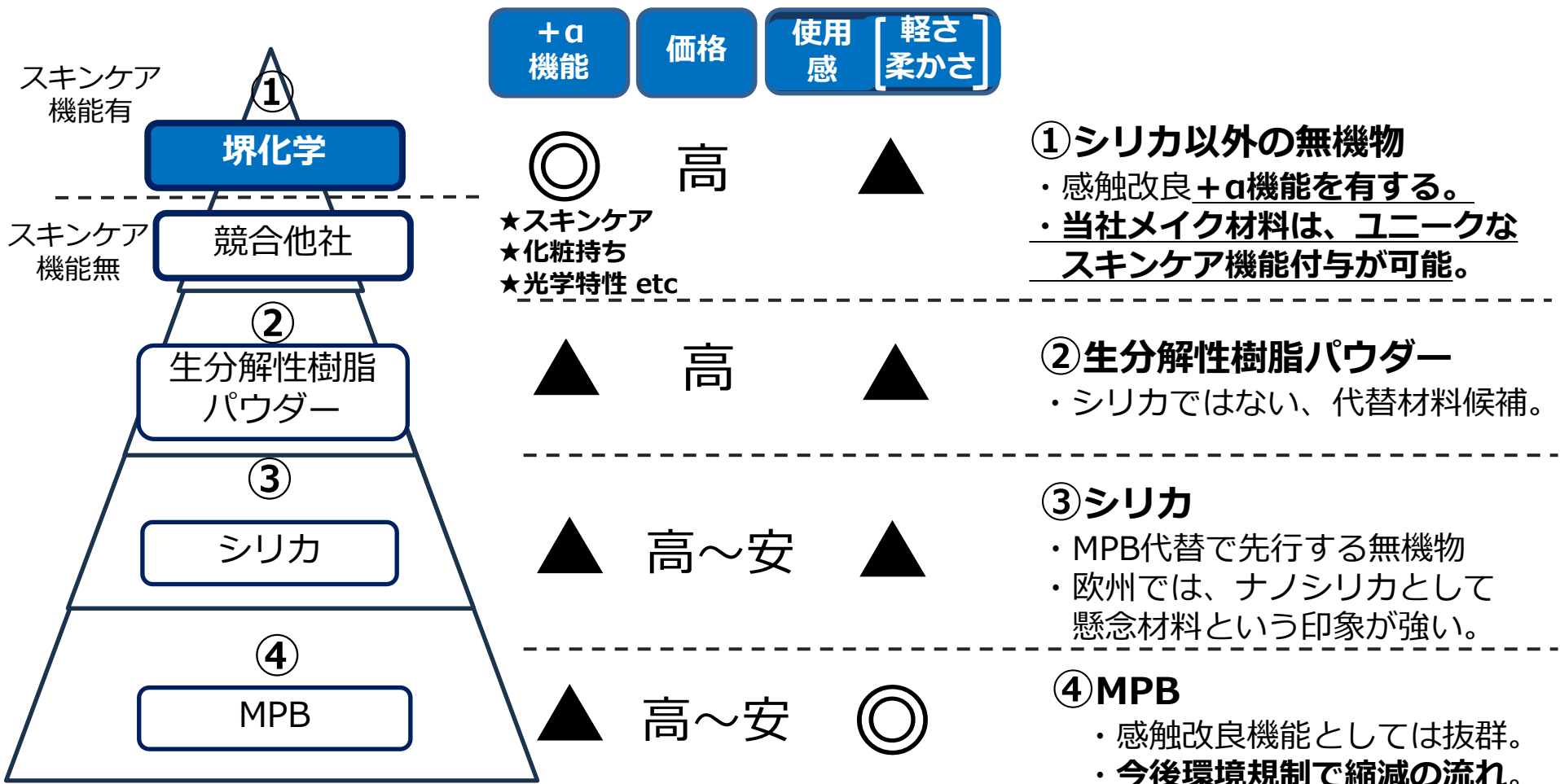
メイクアップ製品に重要な、良好な使用感の付与だけでなく、  
様々な「+α機能」の提供が可能

- 豊富な無機材料の取り扱い
- 高度な粉体プロセッシング技術により、粒子径・粒子形状を自在にアレンジ
- 完成品（化粧品）としての処方提案を実行。

## ■ サプライチェーン



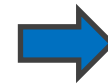
他社にはないスキンケア機能を有する無機材料で競争を優位に進める。



スキンケア機能を中心とした+α機能やその処方提案力と、柔軟な供給体制の整備により、売上・収益の拡大を目指す。

スキンケア機能などの+α機能付与  
(★新たな競争優位性)

× 供給体制の整備



シェアの向上

脱MPB / 脱シリカ  
需要の取り込み

当社固有のメイク材料  
の供給量アップ

メイク材料市場での  
様々なニーズに応える

- ・ MPBの使用縮減の流れ  
- 環境負荷低減の加速

- ・ +α機能のニーズの高まり  
- 先行するシリカ代替の流れ  
- スキンケア/化粧持ち/光学特性要素といった機能が完成品(化粧品)でどう発揮されるか？をPR。

- ・ マルチプラントの投資を実行。  
- 投資金額：2,590百万円  
- 竣工時期：2026年2月

⇒トレンドに応じた柔軟な生産体制を構築

- ・ 美と健康な肌への貢献  
- 材料と消費者の動向の変化を着実にとらえ、メイク材料としてのシェアアップ。

⇒日焼け止め材料以外でも化粧品業界での接点が増加し、業界での存在感を高めていく。

# ご清聴ありがとうございました。

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。